

Weekly Report

2023-24



世界に希望を生み出そう

創立 / 1965年6月25日
例会日 / 毎週木曜日 PM12:30~
会場 / 江南商工会館11F大ホール
江南市古知野町小金112
0587-54-8132

事務局 / 江南商工会館別館11F
TEL / 0587-55-6554
FAX / 0587-59-7720
URL / <http://www.konan-rc.com/>
Mail / kouanrc@beach.ocn.ne.jp
会長 / 富田清孝 幹事 / 木本寛 会報委員長 / 山崎博征



2023年(令和5年) 9月7日(木) 晴れ 第2773回(当年度第7回)例会

点鐘

司会

国家斉唱

ロータリーソング斉唱

四つのテスト唱和

会長 富田 清孝君

SAA 濱島聡一朗君

「君が代」

「奉仕の理想」

永田 広光君

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

ゲスト及びビジター紹介



国際ロータリー第2760地区
東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英様



国際ロータリー第2760地区
地区副幹事 光岡 主税様



国際ロータリー第2760地区
分区幹事 小塚 美知子様

会長挨拶



会長 富田 清孝君

新年度が始まり2カ月が過ぎました。奉仕活動も二つ終わり又交換留学生も今のところ何も問題なく過ぎてきております。その間いろいろご協力ありがとうございました。

今日はガバナー補佐をお迎えしての例会です。いいタイミングでお迎えできたのではないかと考えています。

話は変わりますが、最近親睦と言う物について考えさせられたことがあったのでお話します。

今度、10日の日曜日に天然寺さんでBBQの予定ですが、その準備と言うことで「あかり」で会合をしました。そうしたら十数名の会員が集まりました。これだったらBBQをしなくてもいいのではないかとも思いました。

それで気がついたのですが、親睦と言うものは行事だけが親睦ではなくて、その行事をすると決めた時からすでに始まっているのだと気がつきました。人が集まって何かすれば親睦になります。

各委員会で委員長さんだけが活動している様なところもありますが、それでもやっていけるのでしょうか親睦ということを考えて、それではいけないと思います。

各委員会の中でいろいろ相談して決めていただければ、そこの中の親睦になるわけですから。

今年度は親睦の活動でいろいろして行く予定です。全部参加する必要はないですが一つでも二つでも参加していただければ有りがたいと思います。

今日もまたよろしくお願いいたします。

幹事報告 -別紙- 幹事 木本 寛君

出席報告 親睦活動委員会委員 近藤 道磨君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
49名	38名	11名	82.61%

ニコボックス 親睦活動委員会委員 近藤 道磨君

○ガバナー補佐訪問

東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英 様
地区副幹事 光岡 主税様
分区幹事 小塚 美知子様
ようこそ江南ロータリークラブへ！

本日の卓話、よろしくお願い致します。

富田 清孝、波多野 智章、木本 寛、三輪 慎一郎君
○妻伊藤英子が9月1日に昇天しました。長年お世話になりありがとうございました。

伊藤 鶴吉君

○日頃からお世話になっている津坂守英ガバナー補佐、小塚美知子分区幹事をお迎えする喜び。

古田 嘉且君

○ただいま帰りました。

永田 広光君

○本日、ガバナー補佐訪問です。

津坂守英ガバナー補佐、ようこそ江南ロータリークラブへ！

本日の卓話、よろしくお願い致します。

伊藤 鶴吉、森 弘好、倉知 正憲、松岡 一成
庄田 元久、富永 典夫、沢田 昌久、枚本 哲一
猪子 明、長瀬 晴義、南村 朋幸、中村 耕司
加藤 義晴、尾関 育良、岩田 進市、林 庸介各君

卓話

「ガバナー補佐訪問」



国際ロータリー第2760地区
東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英様

Rotary
District 2760

2023-24年度

RI 2760地区 東尾張分区
ガバナー補佐訪問

東尾張分区担当ガバナー補佐
津坂 守英 (名古屋城北RC)

国際ロータリー会長

2023-24年度 国際ロータリー会長
ゴードン・R・マッキナリー
スコットランド
(サウス・クイーンズフェリー・ロータリークラブ)

2024-25年度 国際ロータリー会長
ステファニー・A・アーチック
米国ペンシルバニア州
(マクマリーロータリークラブ)



ガバナーからのお願い事項の伝達

- ◆ 会員数をコロナ前に戻しましょう
- ◆ MY ROTARYの活用
- ◆ 地区大会への登録及び参加
2023年 11月11日(土) 1日目 マリオットアソシアホテル
11月12日(日) 2日目 名古屋国際会議場(白鳥)
- ◆ 世界大会 ガバナーナイトへの登録及び参加
2024年 5月25日(金) シンガポール
スイスホテル ザ スタンフォード



国際ロータリー2023-24年度
RI会長テーマ

**CREATE HOPE
In the WORLD**

世界に希望を生み出そう

ポール・ハリス 1935年来日
クラブを創った最初の理由
--- 寂しかったから



ポール・ハリス ライブ

国際ロータリー第2760地区ガバナー

2023-24年度

酒井 法文

(豊田ロータリークラブ)

地区方針

培おうプライド、育もうブランド、そして未来へ!!!



ハーバート・J・テラー
四つのテスト

1956年来日



国際ロータリー第2760地区 2023-24年度 地区方針

培おうプライド、育もうブランド、そして未来へ!

ガバナー方針詳細は地区便覧参照

ガバナー特別賞

1. 地区の活動方針に沿って有意義な事業となった活動で、ガバナーも認める成果を上げたクラブ
2. 米山記念奨学事業として①②の両方を達成しているクラブ
 - ① クラブ一人平均2万円以上の寄付額を達成(特別・普通寄付合計金額)
 - ② クラブ特別寄付率80%以上を達成(特別寄付人数÷クラブ会員数)

国際ロータリー第2760地区の特徴

- ・ 日本国内最大の会員数を誇る地区
- ・ ワールドフードふれ愛フェスタを十年以上継続
WFFからRFFに名称変更し、よりロータリーのイメージアップを図る
- ・ 一県一地区の地区は他にもあるが最大会員数を継続
(但し、5,000名を常時超えるとRIは分割を考える)
- ・ 会員数は多いがロータリー財団への貢献度は低いように思われる
- ・ ポールハリス・ソサエティー会員が少ない(他地区では5倍)
- ・ 米山奨学記念基金への貢献度は高い
- ・ 米山記念奨学生の受け入れ人数は最大
- ・ 青少年交換事業も活発(12名)

Rotaryは変化し様々な規範を緩和してきました

出席の義務

前後1週間でメーキャップ ➡ 現在 その年度の中で
包括する職業の範囲(社会奉仕活動も対象に)
例会の開催 直接顔を合わせる ➡ オンラインでも可

戸惑いはありませんか

Rotaryの原点
寛容の精神

多様性

D

公平さ

E

インクルー

ジョン

I

Rotaryは楽しくなければならぬ

親睦と奉仕

親睦ありき

そして奉仕



親睦のルール

- ・いばらない
- ・おこらない
- ・否定しない
- ・相手の心を傷つけない



何の為に奉仕するのか

その為には思想もしくは哲学
(指針)が必要

ロータリー章典
1923年の社会奉仕に関する声明

Rotary is a philosophy of life
ロータリーはひとつの人生哲学
(人生の指針)

1. 自ら利益を得たいという欲求
 2. 他者の為に良きことをしなければならぬという義務感
 3. 他者の為に良きことをしたいと願う思い
- 心にある三つの葛藤を調和させる哲学

ロータリーの人生哲学とは奉仕の哲学
Service Above Self
超我の奉仕 フランク・コリンズ

One profits most who serves best
アーサー・フレデリック・シェルドン
最も利益を稼ぐ人は最も優れた奉仕を実践している
最もよく奉仕する者最も多く「報われる」

何の為に奉仕するのか

自分の為に

職業意識を高め、自らに誇りを抱く為

Rotaryは個人の成長に焦点を当てている

これからのロータリアンに求められること

原点に立ち返り

自らの考えを掘り下げる

深化

様々な新しい変化に日本の

ロータリアンとして適切に順応する

進化

2023-24年度 INTERCITY MEETING (IM)

◆2024年2月25日 日曜日

◆ヒルトン名古屋

◆5F 金扇 銀扇

◆13:00開始



IM テーマ

「温故知新」
原点を見つめ未来に羽ばたく

宜しくご参加のほどお願い申し上げます

実行委員長 竹内 淑江
会長 山田 恭敬

ご清聴ありがとうございました

東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英



当年度東尾張分区ガバナー補佐 津坂守英です。どうかよろしくお願いいたします。

ゴードン R. マッキナリー 2023-24年度RI会長の掲げるテーマは「世界に希望を生み出そう」です。まずは平和の構築に主眼を置くことで、その土壌の上に希望を根付かせることができると訴えておられます。そして他の人を助けることが自身のメンタルヘルス向上につながることも言及しています。

酒井法丈当地区2023-24年度ガバナーの地区方針は「培おうプライド、育もうブランド、そして未来へ」。ロータリアンとしてのプライドを堅持し、ロータリーというブランドイメージを地域社会において高めることで、未来に向かって着実に歩みを進める礎にしようというメッセージが込められています。

今年度ガバナー特別賞は有意義な事業活動を行なった上で、米山記念奨学事業として一人平均2万円以上の寄付、クラブ特別寄付率80%以上の達成をしたクラブが対象となります。是非挑戦して下さい。ガバナーからのお願い事項は以下のものです。

1. 充実した例会運営
2. コロナ前に会員数を戻す
3. MY ROTARY を活用し、クラブセントラルに明確な目標を立てる
4. 地区補助金を有効に使った奉仕活動
5. 米山や青少年交換等、積極的に受け入れる土壌を作る
6. ポリオ根絶キャンペーンをクラブ単位で行う
7. 地区大会への登録、参加
8. 国際大会(シンガポール)への参加

さて、これからはロータリー創成期の流れをある一面から遡ってみることにします。

1935年、ロータリー創始者ポール・ハリスは、実は日本を来訪しているのです。当時の帝国ホテルの庭に月桂樹の苗木を植樹されました。クラブ創設の理由を問われた時、寂しかったからと率直に答えられています。

それからほぼ20年後、四つのテストを提唱したハーバートJ. テーラーも来日されています。岐阜ロータリークラブによって岐阜公園に寄贈された四つのテストの銘板の前で記念撮影を受けた写真が残されています。ご承知の通り四つのテストは元々経営理念を示したものであり、商工会議所でのテーラーの話に感銘を受けた他のロータリアンがいたことでロータリーに取り入れられることになりました。

さて、ロータリーは様々な変化をしつつ規範も大きく緩和されることになりました。毎週必ず出席する義務はなくなり、ひと月に2回以上の例会開催でよく、メーキャップもその年度の中で済ませればよいのです。オンラインによる例会開催も許され、包括する職業範囲でも社会奉仕活動も対象となりました。こういった今の状況

に戸惑いはないでしょうか。

創成期においてポール・ハリスはことあるごとに寛容の精神の大切さを説いています。現在RIはDEI(多様性、公平さ、インクルージョン)という新しいテーマを掲げるようになりました。その内容をよく読み込めば、実はそのどれもが寛容の精神に収束していくことが理解できます。ただポール・ハリスの時代に比べ現代では寛容であるべき範囲が拡大化、複雑化しているためにこのようなテーマを掲げる必要が出てきたと捉えればよいのです。

まず伝えたいことは、Rotaryは楽しい場所ではなくてはならないということです。親睦と奉仕がRotaryの両輪とは言われますが、親睦が前提とした上での奉仕と考えます。そうでなければ、いくら奉仕の大切さを説いてもメンバーの心に届くことはありません。

その為には親睦にもメンバーが心得るべきルールがあります。

1. いばらない
2. おこらない
3. 否定しない
4. 相手の心を傷つけない

Rotaryでは取引上の利害関係はほとんどなく気さくに周りと話し合える良さがあります。そのためなおさらこういったルールを全員がわかまえておく必要があるのではないのでしょうか。

さて、皆さんは何のために奉仕するのかと問われてどう答えますか。Rotary創設当時のアメリカでも同じ思いを抱いたロータリアンが多く存在しました。当初のクラブの目的は、親睦、取引の相互支援にあったからです。その為クラブメンバーが納得できるだけの奉仕に対する哲学、もしくは指針が必要となりました。

その苦心のあとがロータリー章典に残されています。1923年の社会奉仕に関する声明がそれであり、「Rotaryは人生哲学である」としています。続けて

1. 自ら利益を得たいという欲求
2. 他者のために良きことをすべきという義務感
3. 同じく他者のために良きことをしたいという願い

心にある三つの葛藤を鎮め調和させる哲学であり、それが奉仕の哲学だということです。

そこには二つの標語があり、ひとつはフランク・コリンズ原案によるService Above Self「超我の奉仕」。もうひとつが皆さんよく耳にされるアーサー・フレデリック・シェルドン原案による「最もよく奉仕する者最も多く報われる」。

でも正式文書である英文は「One profits most who serves best」であり、厳密に言えば「報われる」とは言っていないのです。英語の原文をネイティブの立場で表現するなら、「最も利益を稼ぐ人は最も優れた奉仕を実践している」となります。当時イギリスのロータリークラブがこの標語は撤廃すべきだと唱えました。Profit(お金を稼ぐ)は品がないというのが理由で。

しかし元々この標語はシェルドンの提唱していた経営理念を奉仕の哲学に転用したもので、奉仕の世界でもりっぱに通用するといつてよく、今でも撤廃されずに残されています。当時の日本のロータリアンもこの英文を訳すときprofitが気になったようで「報われる」としましたが、かえってこれにより日本人にとって受け入れやすい標語に変貌したと思います。ここが日本人のすばらしさであり、単にアメリカの奉仕哲学をそのまま鵜呑みにせず、日本に適合するようにアレンジして取り入れ

たと言えます。ただどちらにしても職業において奉仕の意識を忘れないことが肝要だと説いているのです。

さて何の為奉仕するのかを再度自分自身に問うことにします。これまでロータリー創成期である原点を覗いたことで、ロータリーの奉仕の思想は職業奉仕に基づいていることが分かりました。職業に臨む時、周りに奉仕する気持ちを忘れないことが自分の職業を更に発展させることに繋がり、究極的には奉仕は自分の為といえます。

元々Rotaryは個人の成長に焦点を当てていたので、一方で、ある意味職業奉仕は難しい面も持ち合わせています。何故なら相手から対価を受け取る行為が含まれるからです。その際、先に述べた三つの葛藤を鎮め調和させているかを自らに問う必要があります。そういった姿勢を元に奉仕事業に臨んでほしいという願いが先の奉仕哲学に込められているのではないのでしょうか。当然奉仕事業は相手から対価を求めません。その中で様々な困難に出会うことがあるかもしれません。迷いが生まれたなら、もう一度原点に戻って奉仕をする意味を見出す姿勢が不可欠といえます。現在ロータリーにも様々な変化が訪れています。

そのような変化に心惑わず対応するには、ふたつの「しんか」が求められます。まず原点を見つめ自分なりに考えを深めしっかり根を張る「深化」。そしてその上で新しい変化を受け入れる「進化」です。

RIは職業奉仕を起点に現在は五大奉仕へと拡大し、特に人道支援に大きく舵を切ってはいますが、あくまでも全世界に向けて共通のメッセージを送らざるを得ません。ロータリーの原点を踏まえながら、「profit」を報われるとした先人のロータリアンのように、日本人にとって相応しい形にアレンジしつつ変化を取り入れる知恵が求められています。

点鐘

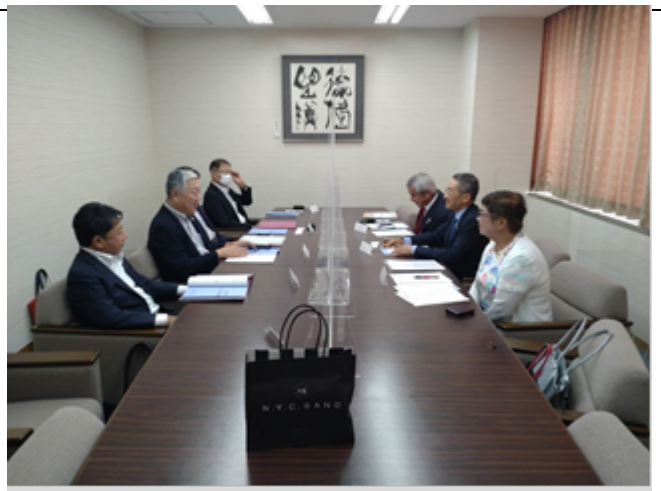
会長 富田 清孝君

本日の食事



会長・幹事懇談会

例会開催前、津坂守英ガバナー補佐、光岡主税地区副幹事、小塚美知子分区幹事ご出席のもと、会長・幹事懇談会を開催致しました。



第4回クラブ協議会

例会終了後、津坂守英ガバナー補佐、光岡主税地区副幹事、小塚美知子分区幹事にご出席いただき、第4回クラブ協議会を開催致しました。各委員長からの発表に対し、貴重なご意見を頂戴しました。



第3回こまい会

9月10日(日)に第3回こまい会として、バーベキューパーティーが開催されました。
天然寺での開催予定でしたが、生憎の雨模様だったため、急遽場所を「あかり」に変更して開催されました。



松井智義君の差し入れあり、田中健シェフの絶品料理(筆者未確認)あり、の楽しい会となりました。



会報掲示板



My ROTARYの登録はこちら

※初めての方は
アカウントを作成してください。
※アカウントがある方は
ログインをご覧ください。



ROTARY 2760

アプリダウンロードはこちら

写真等ございましたら会報までお知らせください。
(担当 尾関 育良)